



坂本 育子
婦人科部長兼ゲ
ノム検査科部長

を提供している。
同院婦人科部長兼ゲノム
検査科部長の坂本育子医師
によると、ロボットを利用
した手術は正確性の向上に
加え、患者の身体的負担を

やまなし 医療最前線 新3OR始動

県立中央病院から

〈288〉

手術をサポートするロボ
ットが医療界で広がりをも
せる中、山梨県立中央病院
は新たなロボット「ヒュー
ゴ」を導入した。従来から
利用している「ダヴィンチ」
との2本柱で、最先端医療



手術支援ロボット「ヒューゴ」を用いて行われた
手術
二甲府・山梨県立中央病院

新ロボット「ヒューゴ」導入 手術支援2本柱で提供

軽くするメリットがあり、
適用範囲は拡大している。
その代表的なロボットがダ
ヴィンチ。4本のアームの
先端に「目」の役割を果た
すカメラ、「手」となる鉗

子や電気メスが備わる。医
師は操縦席に座って、患部
や手術の様子が映し出され
たモニターを見ながらアー
ムを操作する。
県立中央病院は2016

年にダヴィンチの運用を開
始。院内全体で年間500
件を超すロボット手術のう
ち約半数を婦人科が占めて
いる。一般的に1日2件程
度とされる中、婦人科は効

率は図り、1日最大5件
できる体制を構築。国内で
注目を集める存在となつて
いる。
一方、国内は「ダヴィン
チ一強」時代が続いていた
が、近年はさまざまなロボ
ットが登場。「手術支援ロボ
ットは戦国時代」（坂本医
師になりつつあるという。
そのうちの1つであるヒ
ューゴは、米医療機器メー
カーが開発した。1本の支
柱から4本のアームが出る
ダヴィンチに対し、ヒュー

ゴはアーム一本一本が独立
した支柱から出ており、手
術中にアーム同士がぶつかりにくいのが特徴の一つと
される。同院は昨年11月に
国内7施設目としてヒュー
ゴを導入した。婦人科が先
行して運用していて、ヒュー
ゴを用いた手術としては
国内初となる症例もある。
同院は外来手術室（OR）
を1月に新設。今後、スぺ
ースに余裕が生まれる3階
のメイン手術室を改修する
ことでヒューゴの常設が可
能となる。他の診療科を含
めたロボット手術の円滑な
運用を目指す。
坂本医師は「ダヴィンチ
とヒューゴのそれぞれの特
徴がある。両者のメリット、
デメリットを熟知し、最先
端の医療を県民に提供しな
がら、その違いや有用性を
山梨から世界に発信してい
きたい」と話している。
Ⅱ次回は27日に掲載します